

令和2年度 第1回研修会の記録

開催日 令和2年6月28日

研修テーマ	「樹木腐朽の生物学と普及診断機器について」	参加者	埼玉支部 25 名他県支部 10 名 計 35 名
講師	山田 利博 氏 東京大学大学院農学生命科学研究科 秩父演習林 林長・教授	場所	Withyou さいたま 視聴覚セミナー室
資料	P-point 資料	記録	江川聡
目的	腐朽診断機器は樹木の腐朽を検知する機器として利用され、樹木保護の状態の把握、保護、処置について大きな影響を与える道具となっている。樹木腐朽のメカニズムについて解説を受けたうえで、診断機器を適切に利用することで樹木の保護・保全につなげていく。		

■研修内容

1. 樹木腐朽の生物学

- ①組織の生死と材変色・通水障害、樹木の構造・樹皮や材の防御
- ②腐朽型、幹腐朽と根株腐朽の事例
- ③腐朽の原因

傷、菌の拡大と防御、防御反応と水の動き、材変色の大きさ決定要因、腐朽の進行と菌の遷移、ボタン材・反応帯と帯線について解説。

2. 腐朽診断機器

- ①診断における注意点
- ②測定値や材密度と強度との関係
- ③各診断機器の特性として、樹木腐朽の生物学では、樹木の構造、防御の仕組みから腐朽の種類、傷、材変色に関わる要因、菌の遷移。

機器診断については、様々な条件の中「目安」の提供ということで、あらゆる知見の総合から透察をする。

3. その他

機器診断の発展方向の可能性、倒木危険度判定の新たな手法の動向として引っ張り・引き倒し試験による根系の耐力や幹の腐朽、地中レーダーによる根の分布などの紹介。



講師 山田利博 氏



講義風景